

第9回山ノ内町議会報告会実施結果報告書（東部上）

日 時	平成28年2月7日（日）午後7時00分～午後9時04分
場 所	和合会館
参加人数	住民参加者28人 議員14人 事務局1人
地元協力団体	杓野区・杓野組・渋湯組・横湯組
議員役割分担	<p>総括責任者 高山祐一</p> <p>司会進行 小林民夫</p> <p>常任委員会報告者</p> <p>総務産業常任委員会 高山祐一</p> <p>社会文教常任委員会 望月貞明</p> <p>広報常任委員会 湯本晴彦</p> <p>議会運営委員会 山本光俊</p> <p>総合計画審査特別委員会 望月貞明</p> <p>記録者 山本光俊</p> <p>出席議員 小林民夫・山本光俊・湯本晴彦・布施谷裕泉・西 宗亮 望月貞明・高山祐一・高田佳久・徳竹栄子・渡辺正男 児玉信治・小林克彦・山本良一・小淵茂昭</p>
次第(担当者)	<p>1. 開 会 司会者 小林民夫</p> <p>2. あいさつ</p> <p>(1) 主催者 議長 小淵茂昭</p> <p>(2) 共催者代表 杓野区長 湯本喜四郎</p> <p>3. 報告事項</p> <p>(1) 議会常任委員会報告</p> <p>①総務産業常任委員会 高山祐一</p> <p>②社会文教常任委員会 望月貞明</p> <p>③広報常任委員会 湯本晴彦</p> <p>④議会運営委員会 山本光俊</p> <p>⑤総合計画審査特別委員会 望月貞明</p> <p>(2) 質 疑</p> <p>4. 懇談事項</p> <p>テーマ「人口減少と持続可能な地域づくり」</p> <p>5. 閉会 杓野組総代 竹節 収</p>
報告事項の質疑と懇談会意見をまとめて進行	<p>質問：資料にあるように、ふるさと納税の金額は増加しているが、使用先の状況は。</p> <p>回答：ふるさと納税は、総務課が窓口となり、専門の業者に委託して農産物を始め宿泊券・リフト券などの特典を取り扱っている。また、希望の使用用途は4項目あり、インターネットで申し込める。</p>

回答：26年度決算の状況では、ふるさとに錦を飾る応援貨（使い方は町にお任せ）では、203件・671万円、蛍が住む里応援貨（環境・自然保護に使用）では、191件・562万円、ふるさとの親孝行応援貨（福祉・健康管理関係に使用）では、33件・115万円、夢わんぱく子供応援貨（子育て・教育に使用）では、109件・514万円となっている。27年度については、件数金額ともに増加している。

質問：3月議会の一般質問等で取り上げた空き家問題では、議会としてどのように対応をしているのか。また、空き家対策での地域活性化策は。

回答：空き家対策特別措置法が施行され、危険な状態の空き家や景観が良くない空き家について、最小限の修繕・保全を行政が行える制度となっている。ただし、空き家の認定と条例制定が必要で、現在、町では空き家の調査に取り掛かっている。

回答：空き家の活用としての対策は、移住促進事業の中で空き家バンク事業（空き家を登録し使い手に紹介する仕組み）や空き家を提供する準備としての空き家活用改修事業補助金の制度もあり、活用事例もある。

質問：日本版DMOを形成し観光地域づくりを行うことについての町の考えは。

後日回答：町は、地域連携DMOとして県下の2法人（信州・長野県観光協会、信州いいやま観光局）と連携を図っていく考えです。また、地域DMOは、山ノ内町観光連盟の強化、法人化の方向が見えたところで検討する考えです。

※DMO：DMO（Destination Management/Marketing Organization）は、国（観光庁）が地方創生の観光分野での振興策として、従来型の観光振興策には限界があるため新たに導入しようとしている施策で、観光地経営を行う法人です。

※地域連携DMO＝複数の市町村にまたがるもの

※地域DMO＝単独の市町村で活動するもの

質問：町指定の文化財はたくさんあるが、維持管理の方向性は。

回答：毎年、指定文化財等の現状を把握するため、県文化財保護審議会委員の指導のもと、文化財パトロールは実施している。また、26年度は志賀高原石の湯のゲンジボタル生息地保存管理計画を策定している。

回答：町では、文化財の案内看板の改修および設置を行っている。また、総合計画では、古くなっている「山ノ内誌」や「山ノ内の文化財」の改定も予定している。

質問：山ノ内町の自然を後世に残すため、町全体としてどう考えているか。

後日回答：山ノ内町の自然は、豊かで恵まれた大変貴重な資源であり、町の宝物であると考えています。よって、子や孫に伝え、後世に残す責務があると考えています。

また、ユネスコエコパークの町として、自然環境の保護に力を入れるよう働きかけていきます。

質問：小学校統合問題で、小中一貫校についての考えは。

回答：教育委員会の素案では、統合小学校を中学校の敷地に設置する考えだが、時期や敷地の問題もあり、今後研究していく。また、規模的にも一番参考になるのは24年度に統合している信濃町小中学校である。

質問：統廃合された小学校の空き施設を高齢者向けの施設へと展開できないか。

後日回答：公共施設等検討会議で十分検討するように働きかけていきます。

質問：上林はスノーモンキーで賑わっているが、海外のお客さんへの案内が不足している。野猿公苑の場所およびバス停の位置を民家に尋ねに来るが、どこにお願いすればいいのか。

回答：以前よりその問題が上がっており、トイレを借りたりハイヒールで歩き転んで救急車を呼んだりと問題が多いので、観光商工課へ案内看板等の対応を頼んでいる。

意見：おおむね各地区には議会議員がいて地元住民の意見を組み行政に上げているが、地元住民は町に何を求めているのか意見に耳を傾けていただきたい。

質問：山ノ内町は観光と農業とうたっているが、観光とは何か、全議員の考えをききたい。

回答：全議員が回答（議会報告会につき、議員個人の意見は省略します。）

意見：議会だよりを見ているが、町長・課長に質問して応答された意見に納得するような質問では困る。もっと追及していただきたい。

意見：人口を増やすには、長寿、出生率を上げる、I・Uターンを増やすと考えます。長寿といっても町への経済負担を減らすため、健康高齢者であることが求められるので、社協の活用を。

後日回答：町民の健康づくりの視点から、さらに施策の拡充を働きかけていきます。

質問：小布施町では健康高齢者を増やすためにコミュニティスクール、小中一貫校の取り組みを始めているが、小布施町のコミュニティスクールの講演会の時、信濃町の総務課長さんに、山ノ内町と4点が類似している福島県湖南小中学校への視察を奨められたので検討を。

後日回答：よく調査・研究させていただきます。

意見：福祉・教育・観光の三つに特化して取り組むだけでも、人口増加につながると考えるが、地域の子どもの数の減少で下校時の安全確保、保護者数の減少により共働き・ひとり親家庭の負担増、近所で遊べる友達がないなどの問題に対応してほしい。

意見：シングルマザーを全国から招致し、子どもの面倒を全面的にバックアップする代わりに、母親にはヘルパー等の福祉の職についてもらう取り組み事例があるが、雇用と福祉を結びつけてほしい。

後日回答：よく調査・研究させていただきます。

意見：町内の英語表記の看板が少なく困っている場面に遭遇するが、QRコードの活用や英語ガイドブックには指差し案内版を検討してみてもいい。

意見：星川橋の右折表記がないことで、交通に支障が出ているため解消してほしい。

後日回答：警察の見解は、法規上の道路幅員からみても2車線としてとらえてはいないので、規制に関しての速やかな対応は困難であると思われます。

意見：町のウィークポイントとストロングポイントを議員の皆さんは意識してもらいたい。

質問：電車の料金体系やバスとの接続が悪いため乗車率が減っている。代替バスを運行する場合、コミュニティバスの路線経路は、地元住民の意見集約をしていただきたい。

回答：過去に行った※デマンド交通（乗合タクシー）は使い勝手が悪く、ほとんど利用されなかった。路線バスの廃止区間の検討に入るとバス会社で発表されたが、継続していけるよう行政では交渉している最中。

※デマンド交通：デマンドは「要求、要請」の意味。利用者が電話などで乗車を予約し、乗り場や行き先はエリア内なら希望できる。利用者がいなければ走る必要がなく、小型車で済むことから、経費削減やバスが走れない狭い道でも運行ができる。タクシーのような希望時間の乗車が必ずしも可能ではなく、乗り合いとなるため、すぐに目的地までいけないこともある。